

川崎いのちの電話

題字：初代理事長 近藤俊朗

100号記念

書いて つないで 広がって



川崎百景 ～広報誌表紙写真より～

ひとりで悩まずに電話相談
044-733-4343



vol. **100**

2020. 11. 1

CONTENTS

100号記念

書いて つないで 広がって

100号に寄せて

素の人が素の心で寄り添い聴くこと 理事長 金子 圭賢
こころ豊かに 広報部長

インフォメーション

2021年度・第36期電話相談ボランティア募集
こころの健康セミナー(2021年3月20日開催)

自死遺族ほっとライン

044-966-9951

第2・4木曜：正午～午後4時

自殺予防 いのちの電話

0120-783-556

毎月10日・24時間無料(午前8時～翌朝8時)

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa.org/> (3回制)

<https://www.inochinodenwa-net.jp> (1回制)

社会福祉法人 川崎いのちの電話

事務局：〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号 ☎ 044-722-7121 発行人：金子圭賢 編集：川崎いのちの電話広報部 URL：<http://kawasaki-inochinodenwa.jp/>



第1号 1987年

1987年5月9日(土) 広報委員会いよいよ発足

川崎いのちの電話 '87.5
044-733-4343 会報誌 第1号

悩める心に救いの手を!
一責任と使命を痛感し相談開始—

「川崎いのちの電話」は1985年11月設立総会以来、開局のための準備をすすめてまいりましたが、多くの方々の暖かいご支援、ご協力によりまして、1986年12月1日無事電話相談を開始することができました。以来80余名の相談員によって午前10時から午後4時(4月1日から午前9時から午後8時30分)まで1日も休むことなく電話相談を続けております。「心の危機」の現代社会において「いのちの電話」の重要性が一層増している現在、私共の責任と使命をますます痛感し、従らぬダイヤル24時間体制目指して努力を怠りません決意でございます。

開局にあたって
川崎いのちの電話 理事長 近藤俊朗

開局の日の電話の開局記念式典を東横線武蔵小杉の駅、中小企業婦人会館にて昭和61年11月29日午後2時に行いましたところ、伊藤市長、深澤民生局長、岡本神奈川県福祉部長、斉藤文夫参議院議員、市川代三郎川崎市議会議員、村山盛教日本いのちの電話連盟理事長、湯澤信治横浜いのちの電話理事長、松本賢治ライオンズクラブガバナー、才武精一DDGをはじめ、関係各界から多数の来賓の出席を得ました。

式典は堀之内斎後援会議員の朗読に始まり、来賓の力強い激励と、協力のご挨拶を頂きました。特に伊藤川崎市長によって記念通話が行われ、通話の中で市長は「大変な仕事であると思うが、救いを求めている人達に、苦悩の多い時代に生きるものとして、またよりよき隣人として、助け、

励め、助ましを存えていただきたい」と、神保事務局長(電話相談員)に激励の通話をいただきました。

式典の中で全川崎ライオンズクラブ、朝日厚生文化事業団から助成金をいただき感謝しております。

また「いのちの電話とコミュニティー」と題して青山学院大学教授長谷川浩一先生の特別講演をいただきました。

何時もながらのご協力を紙上をおかりして御礼申し上げます。以上のように實業でありましたが概順な式典を終了することができました。これひとえに横浜、東京いのちの電話の皆様は勿論、行政の方々、県会、市会議員の皆様、川崎いのちの電話後援会の皆様、ライオンズクラブ、ロータ

—1—

現コピーライター、某市民団体機関紙編集長5年、元NHK記者、長年著名な某婦人雑誌社編集、県のたよりレポーター、町会新聞、我ら人間コンサートの広報等々、素晴らしいキャリアをもつ方々が広報委員になってくださいました。広報委員会は広報誌の発行と共に「いのちの電話」のPRを主な活動内容としています。そして、そのねらいは ①いのちの電話運動を理解し協力していただく ②いのちの電話の存在を知って活用していただくということですから1回に5000部も印刷するのです。

実務は電話相談員である4人の委員がすることになります。年3回の発行を目標に11月1日発行をめざして紙と活字の色、スタイル、題字、シンボルマーク、ページ数、印刷所等々、基本線が具体的に決められました。今後は編集会議を重ねて、テーマ、執筆依頼などが進められる予定です。11月にはきっと素晴らしい広報誌が出来上るでしょう。

相談員通信「絆(きずな)」より抜粋

あとがき

川崎いのちの電話は、1985年7月25日開局準備会議の初会合がもたれ、1986年11月24日設立総会、12月1日電話相談開始と、比較的短期間のうちに開局されたように思う。

これには年内開局するという近藤理事長の強い決意と役員の方々の努力がもとより、ご理解を示され、お力添えをいただいた多くの方々を支えられたこと、そして東京いのちの電話、横浜いのちの電話の関係者の暖かいご指導ご協力をいただいたことがあげられよう。衷心より感謝申し上げる次第です。

会報誌は予定より遅れ第1号を発行いたしました。次号から、年3回発行予定として、この度発足した会報誌編集委員によって、企画編集されてゆくことになります。何につけてもご苦労さま。

いのちの電話にふさわしい会報誌作りに期待いたします。

—表紙タイトル 近藤俊朗—



第38号 2000年

社会福祉法人 川崎いのちの電話
044-733-4343

2000年3月1日 第38号

この道は どこまでつづいているのだろう
道の果てには 何があるのだろう

そんなこと 今はわからなくていい
今日も靴のひもをギュッと締め
ただひたすら 歩いて行こう

—1—

青空

10代20代と、学業や仕事とは関係なく写真を撮っていた。ファインダー越しに見た景色に自分の中の「なにか」が写り込む、その面白さにのめり込んだ。悩み多き年頃に自分と向き合う時間でもあったと思う。今はもう前ほど写真を撮ることはなくなってしまったけれど、それでも自分の中の「なにか」を探すことは相変わらずで、それはずっと続くのだろうなあと、元気に遊び回る小学生の我が娘を見ながら苦笑してしまう。悩みや迷いは若者だけのものではない、という当たり前のことを歳を重ねて実感した。

20年前、縁あって「川崎いのちの電話」の広報誌の表紙に写真を使っていた。久々に見返してみると、そこには、かつての自分と今の自分、そして変わらない空があった。どんな時も、変わっていくもの、変わらないものがある。明日の空も青いことを願った。(M.K.)



50号表紙 M.K. 撮影～モンゴルにて～

100号への歩み

書いて

つないで

広がって

第51号 2004年



ポリシーは続く

川崎いのちの電話広報誌 100号発行おめでとうございます。
微力ながら2001年～2011年まで、広報誌の発行に携わっておりました。

「広報部に入りませんか」と声をかけていただいた時は、まさかメンバーが全員入れ替わり、経験者が誰もいない新メンバーでのスタートだとは思いませんでした。不安はありましたが、広報誌を通して川崎いのちの電話をひとりでも多くの人に知ってもらおう、という情熱はみんなで共有していたと思います。在籍時の一番の思い出は、2004年発行の51号からそれまでの紙面を大きくリニューアルさせたことです。現在のスタイルはその時のものですね。それまでなかった支援者の紹介や、相談員の声も掲載しました。当時のメンバーと新紙面を作るのに、わくわくと心を踊らせながら会議を重ねていた時間を懐かしく思い出します。今でも川崎の広報誌には必ず目を通していています。読む方の立場になって作成しているポリシーが続いていると感じられます。(元広報部員：T.N)

リニューアルした皆さんの感想が書かれています。(52号より)

編集後記

リニューアルした広報誌に有益な意見をありがとうございました。読み易い、色が良い、大きさが適当など体裁に関するもの、記事が一般読者にも分かり易い、写真が良い、支援者紹介・リレーエッセイが新鮮など内容をほめて下さるもののほか、記事の順序や整理の仕方、内容への意見もありました。私達は川崎いのちの電話を理解して頂き広く支援を仰ぐための広報誌作りに一層努力していきます。(H)





相談員の活動や思いを文字にして伝えたいと誌面作りに関わって8年。

中でも一番印象に残っているのは2014年6月の徳島への部員二人での二泊三日の取材旅行。岡檀著「生き心地の良い町」に、島以外で自殺者の少ない町として紹介されていた徳島県海部町が、一体どんな所なのか自分達の目で見て確かめたいと思い出かけて行った。

飛行機と電車を乗り継ぎ一日がかりの旅。海部駅のあるJR牟岐線は単線2車両の気動車で、海沿いの緑の中を、たくさんのトンネルをくぐってトコトコ走った。トンネルを出る度に青い海が目に入りまぶしい程だった。

著者が滞在した宿に泊まり、町を歩き回り、宿のご主人にも話を聞いた。海部町は蛍の飛び交う静かな所で、裏山に上ると町が一目で見渡せた。

帰りがけ、宿のご主人から野菜のお土産をいただいた。じゃがいもと人参とキャベツとミカン。キャベツの大きさにはびっくり。普通の3倍はあり、嬉しかったけどものすごく重かった。(Ywai)



滞在了宿 (旅館みなみ)

広報誌表紙写真撮影雑感

広報部から話があって表紙写真をそれまでの写真とは変えて、川崎市の写真に限定したいということでした。そして最初の写真は83号(2015 Spring)の多摩川べりのユキヤナギになり、私が川崎市内の写真で一番気に入っていた写真でした。年3回発行の広報誌に合わせて写真を準備し、100号迄、6年間で16枚になりました。初めはそんなに表紙にするような写真が川崎市内で撮るのは難しいと感じ、広報部のメンバーと川崎中を撮影散策に行き適当な対象を探して歩きました。これも楽しい思い出です。

面白かったのは私が羽田空港に行った時、たまたま空港展望台から撮った東京湾アクアライン・風の塔の写真ですが、これも川崎市内の住所でした。写真を並べてみると狭いと思っていた



東京湾アクアライン・風の塔

た川崎市でも結構なランドマークがあるなあという感じになります。私は撮った写真を広報部に提出するだけで、最後は広報部で写真を選択して表紙になります。広報部には私の写真の発表の場を与えていただき感謝しております。(素人写真家トシ)

第83号 2015年



多摩川河畔に咲くユキヤナギ・川崎市高津区



素の人が素の心で寄り添い聴くこと

理事長 金子 圭賢



川崎いのちの電話が開局して34年、電話相談員も34期生の養成研修の最中、『広報誌・川崎いのちの電話』が記念すべき100号発行を迎えました。開局した翌年の1987年5月に第1号を発行、ここまでこれたのはひとえに歴代先輩相談員の努力の賜物ではありますが、同時に当団体を支えていただいている関係者各位のお陰と感謝申し上げます。

「いのちの電話」は、悩める市民からの相談に電話という手段で対話するという性格上、業務の遂行にあたって知り得た個人の秘密の漏洩防止について十分な配慮、所謂守秘義務が厳格に規定されています。加えて電話のかけ手と、受け手である相談員双方の匿名保持を厳守しております。そのため、素の人が素の心で寄り添い聴くという「いのちの電話」の活動を、名もなき相談員ひとりひとりが強い熱意を持って続けていることに、広く皆様に理解していただける機会が少ないのが実情です。

それを唯一活字で明らかにしているのが、『広報誌・川崎いのちの電話』であります。誌面の中で相談員、有識者（学者、医師、専門家等）が今現在の世の中の様々な悩み事の課題を論じ、相談員間の研鑽と意思疎通を語る要となっています。また、支援者、市民、行政機関に広く広報誌を配付して、「いのちの電話」の活動を知っていただいています。読者の皆様にはいま一段のご支援とご理解をお願い申し上げます。



こころ豊かに

広報部長

「一緒に広報誌を作ってみませんか。今度ライフリンクへ取材に行くのだけれど」と、相談員として認定されて間もないころに声を掛けられたのが広報部との出会いでした。自殺予防の最前線で活躍されているライフリンクの清水代表に会えるという誘惑に負けたのが運の尽き。今では、広報部長という重責を担う羽目になってしまい、発行日に間に合うようにと悪戦苦闘の日々を送っています。

とはいえ、日常生活では関わることでできないような人生を送っている人たちとの出会いは、視野を広げ、こころを豊かにしてくれるなど貴重な財産となりました。また最近では、苦勞してまとめた記事が継続研修で活用され、更には他都市での研修の教材にも採用されたという話を聞き、部員皆で喜びを分かち合えることができました。

100号を迎えましたが、これまでを築いて来られた諸先輩方に敬意を表するとともに、一緒に作り上げた素敵な仲間感謝します。そして、101号に向けて新しい力の参加を期待しています。



インフォメーション



いのちの電話相談員が足りません ～第36期電話相談ボランティア募集～

相談ボランティアになるためには、公開講座を1回以上受講することが必要で、その後、面接・適性テストを経て養成講座に進みます。

☆公開講座 受講料無料

どなたでも受講できますが事前申し込みが必要です。

[日程]

- ① 1/26(火) 18:45～ 湯浅 誠「名もなき支援が、人を支える～子ども食堂を通じて、子どもの貧困と共生社会を考える～」
- ② 2/3(水) 18:45～ 張 賢徳「大切な人を自殺から守るために」
- ③ 2/10(水) 18:45～ 渡辺啓二「聴く力～人をいやすもの～」

[会場] 川崎市内(武蔵小杉～武蔵溝ノ口近辺を予定)

[受講申し込み] 申込開始: 2020年12月上旬を予定
募集要項または公開講座チラシの「2021年度公開講座申込書」を川崎いのちの電話事務局までFAXまたは郵送。ホームページからも申し込みめます。

☆養成講座

[応募資格] 23歳以上(2021年4月1日現在)で、公開講座を1回以上受講した方
[研修期間] 2021年4月～2022年8月
[研修費用] 53,000円(予定)。他に宿泊研修費用がかかります。

*公開講座および養成講座の詳細は決定次第、川崎いのちの電話のホームページに掲載します。

問い合わせ先: 川崎いのちの電話事務局
ホームページ: <http://kawasaki-inochinodenwa.jp/>
TEL: 044-722-7121 (平日 10:00～17:00)
FAX: 044-722-7122
〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号

*募集要項(公開講座受講申込書)は川崎市内の市役所・区役所・図書館などの公的な場所に置く予定

こころの健康セミナー開催日程のお知らせ <川崎いのちの電話、川崎市共催 入場無料>

毎年秋に開催している「こころの健康セミナー」ですが、新型コロナウイルス感染防止のために延期していましたが、開催日程が決まりましたのでお知らせします。

[テーマ(予定)] ①こどもと家族のこころの健康(仮題)
②川崎市のこころの健康に関する意識調査の報告

[日時] 2021年3月20日(土・祝) 午後

[会場] 川崎駅周辺を予定

※詳細が決まり次第ホームページなどでお知らせします。

[問い合わせ] 川崎いのちの電話事務局

TEL: 044-722-7121 (平日 10:00～17:00)

ホームページ <http://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

資金ボランティアとしてのご支援を!

川崎いのちの電話の活動は皆様の温かい支援によって運営されております。多くの方のご協力をお願いいたします。
賛助会費・一般寄付金とも所得控除など税制上の優遇措置の対象となります。

① 賛助会員 (年会費)

法人	10万円	5万円	3万円	1万円	
個人	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円

② 一般寄付 (金額、回数を定めません)

[振込先] ■郵便振替 00240-2-36798
社会福祉法人 川崎いのちの電話

[問い合わせ] 川崎いのちの電話事務局
TEL: 044-722-7121 (平日 10:00～17:00)

寄付感謝報告

2020年5月～
2020年8月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

[個人]

(5月)	山田美和子	磯村博	瀧野修	近藤百合	吉田久弘	原勝代	河合星出	伊東光	木崎真	亀谷真実	小高深大	島橋正	良子勉	子修	松都西	岡高村	光真俊	子孝	露石村	木橋上	明美カズコ	山本長	剛聖一	尾中子	根村文	恒子	木戸野	梓野	成助	澤川	利公	恵子
(6月)	藤野久	田久	原久	河合光	伊東光	木崎真	亀谷真実	小高深大	島橋正	良子勉	子修	松都西	岡高村	光真俊	子孝	露石村	木橋上	明美カズコ	山本長	剛聖一	尾中子	根村文	恒子	木戸野	梓野	成助	澤川	利公	恵子			

[団体]

有太平商事	株モリエータープライズ	株由貴工務店	横浜工業株	株ホクト	久津間製粉株
プライムコーポレーション(株)	株見村鉄骨グループ	川崎北L C	株多摩設計	三神商事株	高津区鎮座白髭神社
古本募金さしやぼん	共同購入	山本賢也設計室			

[10万円以上の個人・法人及び各種団体]

ライオンズクラブ国際協会 330-B 地区 (100万円)	四ツ葉グローバルクラブ (10万円)	平間寺 (10万円)	林茂 (11万円)
大川幸男 (10万円)	株三泉 (10万円)	国際ソロブチミスト川崎 (10万円)	

合計 2,766,225円

編集後記

そうそうたるメンバーで記念すべき第1号がスタートし、ここに100号を迎えるに至りました。たくさんの方の相談員が関わって、手さぐりで何度も何度も考えて、やり取りをして、手直しをして大切に送り出してきたものです。読み返してみますと、愛らしいイラストがあり、素敵な詩があり、一号一号にたくさんの方の努力と愛情がこもっていました。これからも広報部への協力と広報誌の応援を、どうぞよろしく願っています。(ね)

記念の100号は、経験したことのない特別な夏の中での編集作業でした。いつものように、一語一文字にこだわったり、時には表現の奥にある心情にまで思いを馳せたりするものだから、あっという間に時間が過ぎていきます。みんなで集まって語り合う、そんな当たり前のことは、本当に大切なことでした。自分一人では気付かなかったことがふわっと浮かんでくることもあります。相談活動も広報誌も人から人へ繋がっていきます。(M.T)